

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972300636		
法人名	医療法人 藤沼医院		
事業所名	グループホーム ふじぬま (A棟)		
所在地	栃木県栃木市大平町富田593-3		
自己評価作成日	平成 26年 8月 25日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成26年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防のため毎日消毒や毎月バルサンを行なう。また業者による清掃など環境整備に気をつけている。 ・四季折々の地域の行事に参加できるようにし、地域との交流を大切にしている。 ・状態把握に努め、医療との連携がとれており、健康管理ができています。 ・家族との連絡を密におこない、入居者の意思を尊重して安全、安心した生活ができるよう寄り添った支援を大切にしている。 ・勉強会を通し、介護の質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>旧大平町中心街の住宅や個人商店等に囲まれた閑静な場所に位置し、市庁舎が近くにあるほか、同一法人が運営する病院が隣接するなど恵まれた環境にある。また、医院の院長が毎日事業所を訪問し利用者の健康状態の確認や定期的な検診が行われるなど、医療との緊密な連携が図られており、利用者や家族の安心感にも繋がっている。地域との交流も積極的に行っており、地元行事の花市や夏祭りなどへの参加、小学校の運動会見学、保育園児との交流、ボランティアの受け入れなどが円滑に行われている。職員は勉強会などを通じてサービスの質の向上に努めており、利用者一人ひとりと向き合いながら、地域の中で安全で安心した生活を送ることができるよう支援に取り組んでいる。さらに、家族との連絡を密にししながら利用者や家族の意見・要望を踏まえたサービスの向上にも努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	心身の状況、環境、年齢に応じ、地域において必要な福祉サービスを総合的に提供されるよう援助することを目的として行うという理念を掲げ、ホームのモットーと共に毎週月曜日の朝礼時に唱和、共有し、確認している。	法人の理念に併せ、「人格尊重・地域交流・安心生活の支援」を事業所独自のモットーとして掲げ、毎週月曜日の朝礼時に唱和し、管理者と職員が共有を深めながらケアの中で理念やモットーの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の花市、夏祭りへの参加、小学校の運動会の見学に出かける。消防訓練時に地域の方の見学がある。通所リハビリ合同での保育園児との交流、お遊戯発表、ボランティアの受け入れをしている。	事業所に隣接する二つの自治会と連携を図りながら、地域で開催する花市・悪魔祓い(育成会の子供たちによる地域行事)などの行事へ参加している。小学校の運動会見学・保育園児との交流のほか、事業所の消防訓練を地域住民が見学するなど、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会において院長先生より話をいただき、家族にも理解を得ている。また、面会時には本人の状態を報告しながら、認知症について説明し、理解を得ている。運営推進会議でも地域の方々に理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市や包括の職員、2つの自治会の会長・民生委員、家族・入居者代表をメンバーに隔月第3木曜日に開催。行事活動報告、研修報告、話し合い、運営改善に努めている。	利用者、家族、隣接自治会長、民生委員、市職員、包括支援センター職員、法人理事等が参加して隔月に開催している。利用者の状況や行事活動、職員研修内容などを報告し、参加者からの活発な意見や提案をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、報告、市からのお知らせもうかがっている。新聞でも話題になっている認知症の行方不明者について市の取り組みについて話をうかがう。	運営推進会議で意見交換を行うほか、市庁舎が近いことから利用者と一緒に出向き近況報告を行ったり、電話で連絡を取り合い指導やアドバイスを受けるなど、連携・協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行い、理解を深めている。玄関の施錠、ベッド柵、つなぎ服、ミトンなど身体拘束は一切していない。言葉使いは管理者が指導するとともに職員同士でも注意しあっている。玄関の施錠は19時から翌朝8時までとしている。	身体拘束や権利擁護に関する勉強会を実施し、職員の意識向上や身体拘束排除マニュアルの更なる理解に努め、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、安全面に配慮しながら見守り方法を徹底し、日中の玄関施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、理解をし、支援につなげている。入居者との会話のコミュニケーションについて職員間で注意し合い、振り返るよう努めている。		

グループホームふじぬま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、理解をし、支援につなげている。入居者、家族の状況も踏まえ、必要時は活動できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面にて入居者、家族の不安、疑問点を確認しながら、十分な説明を行い、理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とのコミュニケーションを図り、常に意見や不満が言えるような雰囲気づくりに努めている。玄関には意見箱を設置、家族会の開催、家族の面会時には入居者の状況を報告し、意見、要望を伺い、話し合いをしている。	意見箱の設置や家族会の開催、家族の来所時を通して、意見や要望等を聴く機会を設けるとともに、常に問いかけをして、意見交換をしやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見には耳を傾けている。申し送り時に話し合いをしたり、日誌にも記載している。何か気づいたときは管理者、棟責任者に言える体制になっており、業務改善に努めている。	日頃から申し送り時の話し合いや日誌などを通してコミュニケーションを図り、問いかけや意見に耳を傾けている。また、モニタリングやカンファレンス時にも話し合う機会を設けており、職員の意見や提案をサービスの向上に取り入れるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者である院長が毎朝、朝礼に参加し、職員の状況を把握し、法人全体の担当者会議にて環境改善等の話合いも行われ、改善につながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修会の参加、報告書の作成、回覧を行っている。外部研修への参加後はホーム内での報告を行い、周知、習得へ努めている。ホーム内での勉強会も定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時に交流をさせていただき、情報交換をし、サービスの質の向上につなげている。また、運営推進会議の市の参加もあり、情報を得て、サービスの質の向上につなげている。栃木県認知症高齢者グループホーム協会に加入している。		

グループホームふじぬま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを行い、本人の不安、希望を把握するように努めている。安心した生活が過ごせるよう、本人、家族から話を聞いたり、入居前の担当ケアマネより情報をいただき、本人の意向に沿った支援につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の担当ケアマネより話を聞いたり、家族の来訪時や、こちらから出向いて直接話をし、困っていること、不安、要望を伺い、対応し、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の担当ケアマネや入院中であるなら看護師より話を聞き、また、本人、家族の来訪時やこちらから出向き、話を伺い、必要な支援を見つける努力をしている。内容により隣接医院の理事長、事務長、居宅ケアマネに相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを把握し、コミュニケーションを図りながら、洗濯物干し、たたみなどを一緒に行っている。お楽しみメニューなど食べたいものを一緒に考えたり、手作りおやつを一緒に作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密に行い、状態を報告している。そのうえで家族と相談しながら、支援に結びつけている。また、面会や外出ができるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会できる状況であり、電話での対応もしている。近所の美容院の迎えにて美容院にも行かされている。また、外来受診時には知っている方にも会うため、楽しく会話ができるよう支援している。	地域行事に参加しているほか、馴染みの美容院に行った際や法人医院での受診時に知人や近隣住民と楽しく会話ができるよう支援している。また、家族や知人等の面会も多く、自由に気兼ねなく談話できるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事やレクリエーション時には利用者同士が楽しく一緒に行えるよう支援している。また、声かけを行い、話を聞き、状態の把握に努め、孤立しないよう努めている。		

グループホームふじぬま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後利用する事業所への申し送り書の送付、ホーム外でも本人、家族にこちらから声かけ、話をする。必要に応じ、事業所へ説明、支援に結び付けられるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向沿えるよう本人、家族から希望、意向を伺っている。生活歴を把握し、日々のコミュニケーションや様子からも把握に努めている。家族に状態、状況を報告し、家族と話し合い、本人本位になるように努めている。	これまでの生活歴の把握のほか、日常の表情・入浴時の会話など、コミュニケーションを活かしながら思いや意向・希望などの把握に努めている。また、本人の状況を家族に報告し、話し合いながら本人の意向に沿えるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、前ケアマネなどから情報を収集し、生活歴、環境、経過の把握に努めている。その際、守秘義務やプライバシーに配慮し、本人、家族との信頼関係を築き、安心して生活していただけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、入浴時、状態変化時のバイタルチェックや日常の観察、ADLの変化などの把握に努めている。支援時にできることを行えるよう寄り添い、支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、棟リーダーが中心となり、スタッフと日頃の入居者の状態を朝の申し送り時に話し合いを持っている。サービス担当者会議では本人、家族、院長を交え、意向や意見をうかがっている。3か月ごとに長谷川式、FIM、かなひろい、モニタリング、アセスメントを行い、計画の見直しを行っている。	ケアマネジャーやリーダーが中心となり、本人・家族の思いや意見を聴いた上で、職員の意見や医師の助言を得ながらサービス担当者会議で介護計画を作成している。また、3か月毎に自立評価やモニタリング、アセスメントなどを行い、本人の状況に即した計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援内容だけでなく、日々を様子を記録に残している。また、必要なことは介護日誌にも記録し、申し送りをし、情報の共有を図り、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接医院での診察、リハビリは家族と協力して行っている。本人の意向を大切に、家族と連絡を密にとっている。法人全体での納涼祭、他施設のイベントの参加、行きつけの美容室での散髪、季節の行事への参加、家族との外出など支援を行っている。		

グループホームふじぬま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接通所リハビリでの保育園児の慰問、ボランティアの慰問に参加している。行きつけの美容室、昔ながらの地域の行事として夏祭り、悪魔払いに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接医院に定期的に家族と協力して受診し、本人の状態把握の共有につなげている。状態不良時はすぐに臨時受診を行っている。院長もホームに定時にみえ、常に状態を見守っている。他医院受診時は申し送り書や同行にて、状態報告をしている。	多くの利用者が隣接する同一法人医院をかかりつけ医としており、家族と協力しながら定期的に受診している。同医院院長が毎日利用者の健康状態を確認するため事業所を訪れている。他の医院を受診する際は家族が付き添うが、受診結果等の情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護師がいるため、情報や気づきを報告し、看護師は日々の状態を把握し、隣接医院と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は申し送り書にてホームでの様子、状態を報告。必要時はアセスメントなどのコピーを渡し、情報の共有に努めている。法人全体の担当者会議にて情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	最期について入居時、状態変化時など、その都度、状態を報告、家族の意向を確認、書面に残して方針を共有している。家族の意向を医師にも報告し、隣接医院との連携もとっている。本人、家族の意向があればホームでの看取りも行っている。	本人や家族の意向を確認しながら重度化した場合や終末期に向けた対応方針を共有し、状況の変化のたびに本人や家族の意思確認を記録している。また、同法人の医院が隣接していることもあり、本人や家族の要望があれば看取りを含めたターミナルケアをも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の対応マニュアルも作成しており、定期的に勉強会を行い、習得に努めている。急変、事故発生時は隣接医院と連携がとれている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練、部分訓練を年に合わせて4回実施している。消防署には1回指導していただき、毎回自治会の方の見学もある。地域の消防団にもホームを知っていただくようパンフレットを渡し、協力体制を築いている。	消防署の指導による年1回の総合訓練の他、通報・消火・避難訓練を年3回以上行っている。毎回自治会の見学がある。また、災害に備えた食料や飲料水を同法人医院と共同で備蓄している。	地域消防団の指導や同法人医院との連携により災害対策に取り組んでいるが、夜間災害時には職員だけで対応することが困難と思われるので、地域住民の訓練見学に止まらず、協力・連携方策の検討に期待したい。

グループホームふじぬま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常、名字にて○○さんと呼びして、ホームのモットーである一人ひとりを尊重し、プライバシーを損ねないよう、言葉遣い、声かけの仕方、接する時の態度や表情に常に気を配っている。難聴の方にもジェスチャーや耳元で話しかけをしている。	事業所で作成しているプライバシー保護マニュアルや言葉遣いチェック表を参考に、職員が自己評価しながら一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーを損ねないよう対応している。また、個人情報の守秘義務を職員が理解しており、情報の取り扱いと管理の徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に笑顔心を心がけ、入居者が意思を表出できるように雰囲気作り、コミュニケーションだけでなく、表情やしぐさにも注意深く観察し、本人の意向を把握していくよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望をできる限り大切に一人一人が自分のペースで暮らせるよう、表情や体調の確認をして、個人のニーズに沿った声掛けやペースにあわせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に衣替えを行っていただき、季節に応じたおしゃれをしている。入浴時は一緒に着替えを用意し、意向を取り入れている。近所の美容室や行きつけの美容室でカットやカラー、パーマをかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1度のお楽しみメニューでは食べたいものを一緒に考えたり、手作りおやつでは一緒に作ったりしている。テーブルクロスやランチョンマットを準備したりと、おいしく食べられる雰囲気作りをしている。	月1回のお楽しみメニューは利用者の希望を聞き、「おはぎ」や「しもつかれ」など季節感のある食事を楽しんでいる。利用者はできる範囲で配膳の準備や片づけを行っている。職員は利用者とは話をしながら食事介助を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立に沿って手作りの食事の提供。状態に応じた食事形態を提供したり、栄養補助食品での対応もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後イソジンうがい薬、ハミングッドを使用して口腔ケアを行っている。毎晩入れ歯の消毒も実施。口腔内の観察をしながらその方にあった支援方法で行っている。		

グループホームふじぬま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、また個人のADLに合わせて声かけ、誘導、介助を行っている。本人の希望時は見守り、介助を行っている。夜間はオムツ対応でも日中はトイレでの排泄支援をしている。	可能な限り自立した排泄ができるよう、一人ひとりのADLに合わせた誘導や声掛けを行って支援している。また、排泄パターンを把握し尿意・便意のない利用者にも、さり気ない声掛けで誘導し、トイレでの排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけでなく、ヤクルト、ミルミルの飲用、水分摂取を促している。手足の運動、歩行などを行ったり、腹部マッサージを施行している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を体調や希望、用事にあわせ、曜日の変更をしている。月1回は浴槽食毒を行い、衛生面でも気をつけている。	利用者の体調や希望に合わせて、同法人医院の機械浴も可能な入浴支援を行っている。また、毎月浴槽消毒を行うなど衛生面に配慮しており、季節に応じた柚子湯や菖蒲湯などで入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に応じ、日中でも居室やリビングで休んでいただけるよう声かけ、支援をしている。夜間は、居室の明るさやドアの開閉は希望に沿って行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情のコピーを保管し、薬の分包、準備は看護師が行っている。服薬内容の変更時は申し送りをして、支援に繋げ、その後の状態報告を医師に行っている。家族には薬情を渡したり、状態報告を行い、状態把握ができるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり、たたんだりすることを楽しみにされている。ハーモニカを練習し、職員のオカリナと演奏会をしている。広告でゴミ箱を折り、日常使用している。テレビでの歌番組や職員による紙芝居、読み聞かせなども楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ADLにあわせた散歩、外食や季節にあわせた初詣、花見、小学校の運動会見学など外出支援を行っている。家族とも受診の後に外出、外食に出かけている。	日頃から近隣の散歩や買い物に出掛けている他、季節に応じた花見や運動会の見学など、戸外で楽しむことができるよう外出支援に取り組んでいる。また、家族の協力を得ながらの個別外出やADLに応じた外出支援に取り組んでいる。	

グループホームふじぬま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大切さを理解しているため、なくしてしまった時の心配もあり、基本的には事務で預かり、ホームでは隔週のヤクルトさんからの購入、外食、必要時の買い物ができるくらいの金銭を管理している。支払いは見守りにて行う方もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話をかける支援をしている。年賀状、暑中お見舞いを本人希望の方に絵や文を書き、出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全なスペースの確保、温度管理、照明器具の色合いなど安全、安心を考え、配慮し、常に環境整備に心がけている。共有空間の壁面には手作りのカレンダーや作品、学習したくんの用紙を飾っている。また、暖かい日は東屋で過ごし、庭になった実を取りに出かけている。	利用者が安全、安心に過ごせるよう湿度や温度、照明など、快適な環境整備に取り組んでいる。リビングは明るく清潔感があり、利用者手作りの絵や家族会の作品、季節の花などが飾られ居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で談笑したり、本人の居室にて好きなハーモニカ、広告でのゴミ箱づくりをしている。また、気の合った方の居室に遊びに行き、談笑している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使慣れた家具、かわいがっているぬいぐるみなどを自由に持ち込み、安心につながっている。家族の写真や作った作品を飾っている。また、本人の意向に沿って家具やベッドの配置をしている。	洗面台とクローゼットが備え付けられている。居心地よく過ごせるよう使い慣れたテレビや装飾品を自由に持ち込んでもらい、家具やベッドは本人の意向に沿って配置している。居室ドアの色分けや表示の工夫のほか、衛生面に配慮して、生活しやすい環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方が自立した整容ができるよう洗面台の扉を外している。自分で出し入れができるようタンスの中身のシールを貼っている。居室には本人の顔写真のカード、トイレにはトイレと書かれたカードをさげ、わかりやすいようにしている。夜間転倒防止、介助のため、センサーマットを使用している方もいらっしゃる。		